

都市再生整備計画 事後評価シート
北九州学術研究都市地区

平成23年3月

福岡県北九州市

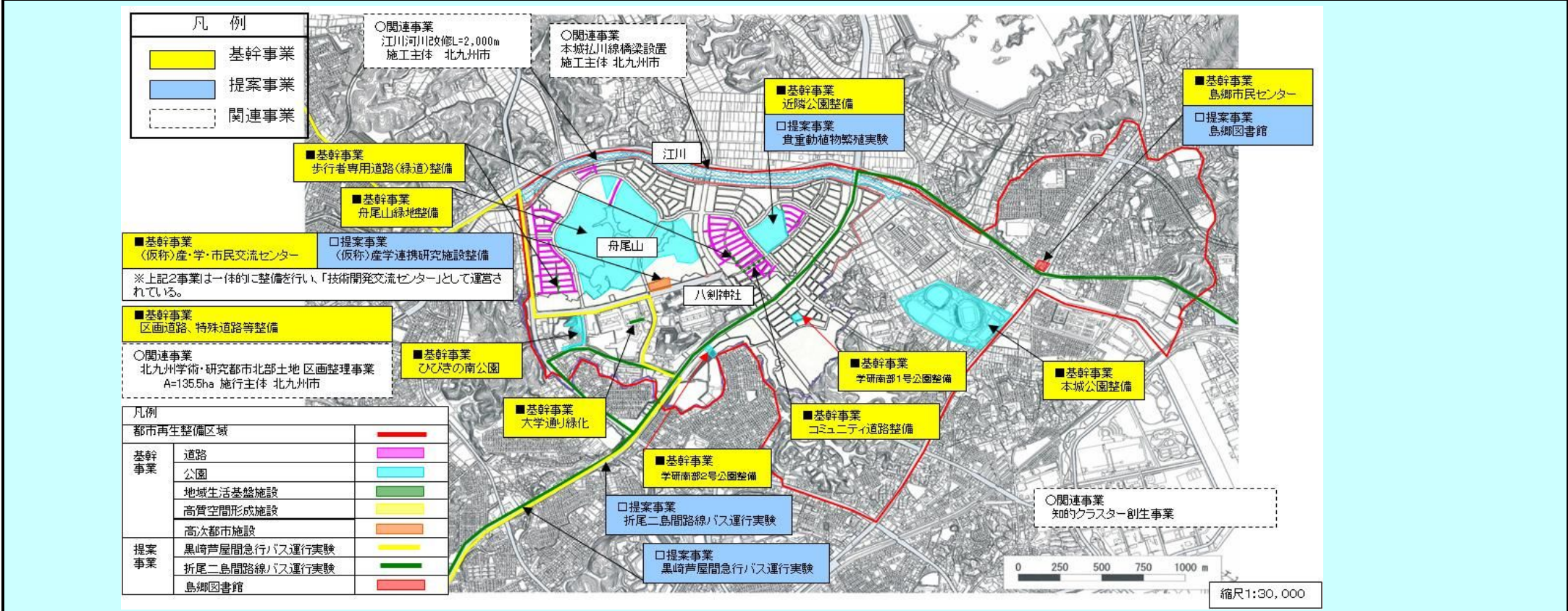
様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	北九州学術研究都市地区			面積	597ha	
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	4569.1百万円	国費率	0.319			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園：近隣公園 高質空間形成施設・コミュニティ道路整備、歩行者専用道路(緑道)整備、大学通り緑化 高次都市施設(仮称)産・学・市民交流センター整備									
		提案事業	地域創造支援事業(仮称)産学連携研究施設整備、黒崎芦屋間急行バス運行実験 事業活用調査、事業効果の検証 まちづくり活動推進事業、貴重動植物繁殖実験									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	サイン整備、江川河川沿い並木道整備、(仮称)地域交流センター整備	期間内の実施が困難になったため削除した。				目標、指標に関係するが影響は少ないため、目標、指標は据え置く。				
		提案事業	里山保全推進事業、まちづくり活動推進事業、鎮守の森の復元活動支援	期間内の実施が困難になったため削除した。				目標、指標に関係するが影響は少ないため、目標、指標は据え置く。				
		基幹事業	道路：区画道路12-1,11-2,10-1,10-4,10-5,9-6,9-8,9-9,6-29,6-37～41,6-55,6-57～67,6-69～74,6-76,6-98,6-100～102,6-105～116,6-117～118,6-119,6-120～121,特殊道路6-56,6-131,4-11,4-17,4-19～24,4-35～36,4-37～42,4-44,4-45,4-49～53,3-3 公園：舟尾山緑地整備、ひびきの南公園,学研南部1号公園,学研南部2号公園 高次都市施設：島郷市民センター	道路：本地区周辺の市街化が顕著であり、秩序ある都市の発展を図るために、区画道路等の都市基盤整備を早急に整備する必要が生じたため。 公園：利用者の利便性向上を図り居住環境の向上を図るため。 高次都市施設：コミュニティ活動の向上など「地域づくり」を促進するため。				目標、指標に関係するが影響は少ないため、目標、指標は据え置く。				
		公園：本城公園	生涯スポーツやヘルシースポーツのできる街づくりを目指すため。				目標4と指標5を追加した。					
	提案事業	地域創造支援事業：折尾二島間路線バス運行実験、島郷図書館整備事業	交通アクセスの利便性向上を図るため、また、公共サービス機能の充実のため。				目標、指標に関係するが影響は少ないため、目標、指標は据え置く。					
	交付期間の変更	当初変更	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
指標1		研究員数	人	312	H17	370	H22			あり なし	(仮称)産・学・市民交流センターや(仮称)産学連携研究施設を整備し、新たにカーエレクトロニクス分野等での研究や人材育成などを行ったことにより、近年研究員数が増加傾向にある。しかし、近年の社会情勢により、目標値までの増員がなかった。	平成23年7月
指標2		進出企業数	社	31	H17	50	H22			あり なし	(仮称)産・学・市民交流センター整備や(仮称)産学連携研究施設整備等により、次世代産業を創出・育成する環境が整ったため、進出企業数が増加した。	平成23年4月
指標3		地区の人口	人	1,941	H16	2,329	H22			あり なし	区画道路・公園等の基盤施設の整備や市民センター等の整備により、居住環境が向上したため地区の人口が増加した。	平成23年4月
指標4		環境保全活動の参加者数	人	387	H16	426	H22			あり なし	地区内の公園の整備や貴重動植物繁殖実験等により、環境保全活動に対する関心が高まり、環境保全活動の参加者が増加した。	平成23年4月
指標5	観客動員数	人	54,600	H17	60,000	H22			あり なし	本城公園の整備により、地元サッカーチーム(J2)のホームとして利用され、観客動員数が大幅に増加した。なお、サッカー以外の利用者についても目標値を超えている。	平成23年5月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
その他の数値指標1			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりガイドラインの作成にあたってのまちづくり勉強会に、地元住民や大学生が参加したことにより、まちづくりに対する意識が向上し、良好な街並みづくりに寄与している。 市民センター設計に伴い、地元住民と協議したことで、地元ニーズにあった整備ができ、市民センターの積極的な活用に繋がっている。 良好な居住環境等の整備により、市民のまちづくりへの意識が向上し、道路清掃や街路樹の手入れ等の活動に積極的に参加するようになった。 											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし					
	住民参加プロセス	まちづくりガイドラインの作成にあたってのまちづくり勉強会 市民センター設計に伴う地元協議 道路サポーターの活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も地元住民と連携し、必要に応じて実施していく。 他の地区においても、地元協議を実施し整備していく。 他の地区にも道路サポーター制度を紹介していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし					

様式2-2 地区の概要

北九州学術研究都市(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:北九州学術研究都市から生み出される研究開発成果を活用した次世代産業の創出・育成を進め、北九州市経済の活性化を図るとともに、学術研究環境と自然環境・居住環境が調和した複合的なにぎわいのあるまちづくりを目指す。	研究員数	単位:人	312	H17	370	H22	330	H22
目標1:学術研究都市発の研究開発成果を事業化・製品化することにより、新産業の創出や既存産業の高度化を進め、次世代産業の創出・育成を図る。	進出企業数	単位:社	31	H17	50	H22	57	H22
目標2:「自然環境との共生」と「新しい時代のコミュニティの創造」をテーマに、「人と緑のあるまちづくり」を目指す。	地区の人口	単位:人	1,941	H16	2,329	H22	4,990	H22
目標3:北九州学術研究都市のまちづくりにおいて、独自の個性ある環境保全、住環境整備及び交通環境対策に取り組み、その実証結果を、全国に情報発信する。	環境保全活動の参加者数	単位:人	387	H16	426	H22	440	H22
目標4:生涯にわたってスポーツを親しむことができるライフスポーツタウンや、スポーツを通して心身の健康や体力づくりを図ることができるヘルシースポーツタウン等の、まちづくりを目指す。	観客動員数	単位:人	54,600	H17	60,000	H22	124,000	H22



まちの課題の変化	学術研究施設の整備、安全で快適な歩行者空間の整備、市民センター及び図書館の整備、バス運行実験など総合的なまちづくりが進められ、学術研究環境と自然環境・居住環境が調和した複合的なまちづくりが形成された。今後は、学術研究環境の充実や、地域コミュニティ活動や環境保全活動の更なる促進、路線バス利用者の増加等、交通環境対策の検討が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	学術研究環境と自然環境・居住環境が調和した学術研究都市づくりのための社会基盤整備を引き続き行う。新産業、次世代産業の創出に向けて、技術開発や研究に対する支援を行う。新たに多くの方々本地区に居住し始めたため、地域コミュニティ活動の促進や良質な社会基盤の保全維持などへの支援を行い、更に居住環境の質の向上を目指す。一般市民が参加できるイベント等の開催により、スポーツ振興や健康づくりを促進する。